

みの〜れ15歳とともに歩み。。



演劇ファミリー Myu
ちくうち まさあき
筑内 雅明 さん

「色々な人たちから吸収してきたことを
今後は外に発信していきたいですね」と
話す筑内さん。

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.123

稲穂の絨毯が黄金色に輝く水田は、稲刈りで大忙し。夏の雲から、秋の雲に変わり、コスモスの花や金木犀の香り、夜になると虫たちの演奏会に秋の気配を感じる季節になりました。みの〜れでは15歳の誕生日にむけて準備を進めています。今回は、演劇ファミリー Myuのメンバーで、みの〜れ15歳記念オリジナルミュージカル『まんまるムーン』に出演する、水戸市にお住まいの筑内雅明さん取材します。

気がつけば もう15年!?

筑内さんに Myu に入団したきっかけを聞いてみました。「当時、中央高校に勤めていて、学校でも施設を利用させてもらうこともあったらうと思いい、研修に参加しました。当時、みの〜れの職員だった方から『どうせなら・・・やってみない?』と言われて入ったんですよ。演劇をやるのも歌を歌うのも初めて! もともとミュージカルなどは好きで劇団四季は観ていました。こけら落とし公演『田んぼの神様』から参加しています。本番は当然、緊張しましたよね。ソノの曲とかもらって、どうしようかと思っちゃいました。でも、本番で照明を浴びて、お客様から拍手を頂いたら、もう・・・やみつきですよ(笑)「と懐かしそうに話してくれました。

Myu の魅力を聞いてみました。

「過程が面白い! もともと何かを作るのが好きで、脚本から舞台、衣装など全て手作りなのが魅力的です。大変

だけどストレスにはならなくて、かえって解消になる。自分では器用だとは思っていないけれど、凝り性で、負けず嫌いで、飽きっぽいけど人をビックリさせてやるうって思っています。『まんまるムーン』では、衣装の担当もしているの役に合わせてデザインしています。基本、Myu の舞台で着る自分の衣装はほとんど手作りです。今回は、主役の光(ひかり)を育てる翁(おじいちゃん)役で着るちゃんちゃんこがあるのですが、自分で思い描くようなものがないので、布を裂いて・・・裂き織りみたいな感じで作っています」と、話してくれた筑内さんからお芝居の他にも、舞台の装飾や衣装などの魅力も教えてもらいました。

15年間 Myu に関わってきて一番印象に残っている舞台を聞いてみると『田んぼの神様』はすべてが初めてだったので印象に残っています。あとは「ここで逢えたら・・・」シリーズですね」と筑内さん。

「自分自身も Myu に育ててもらっている。こうして広い世代の人が関わっている団体はないでしょうか。人生の先輩

に教えてもらうことや、子ども達から教えてもらうこともたくさんあるでしょう。子ども達がひたむきに稽古しているのが羨ましいなと思う。財産だよ。自分の財産でもあるし、地域の財産でもあると思う」と優しく語りかけてくれました。筑内さんにとってみの〜れは・・・「自分を見つめなおせる所かな? いつ来ても仲間がいる所だね。」「華道も編み物も縫い物も、自分の趣味がすべてお芝居に活かされている。みの〜れに来ていることも趣味だね。いろいろやってきて、根っこは繋がっているという事なんだよね。子ども達だったみの〜れが15年たって色々な人たちからインプットしてもらったから、これからはアウトプットしていかなきゃならないね。気が付けばもう15年か! みたいな感じがな」と話してくれました。

10月7日・8日の『まんまるムーン』の公演は、勇氣、愛、平和の大切さ、誠実さとか、そういったものがたくさん詰まっています。15歳の記念ミュージカルにふさわしい作品ですので楽しみにしてください。

(藤田佐知子)